

## 音楽表現技術の指導における一考察 ——自治体の保育職採用試験の課題を通して——

近藤 茂之

### 序

拙稿(2017)<sup>(1)</sup>では、近年の公務員保育職採用試験における実技課題の変遷と指導のあり方について論じた。筆者の本務校では、毎年多くの学生が保育職採用試験にチャレンジし、各自治体から一定数の内定を得ている<sup>(2)</sup>。教員は教養や専門をはじめとする筆記の他、面接や論作文などの対策を正規授業時間外でサポートしているが、筆者は主として音楽実技の指導に従事している。

各自治体の課題は実に様々であるが、近年ではピアノ実技能力の測定方法について、とりわけ保育の観点から受験生の適性を見極めようとする傾向が顕著となってきた。そこで、学生がより確実に内定を得るためには、単なるピアノ実技の修練にとどまらず、自治体から提示された課題をこなせるよう、実習と同様に保育・教育的実践力を身につけることの重要性について、自身の先行研究により明らかにした。

前稿を執筆後、筆者は求められる実践力の具体的な要素について、学生指導を通して引き続き研究を進めてきた。そこで、本稿では今年度に指導した複数の学生の中から、同じ自治体を受験した4名の学生の指導前後の取り組みと、受験後に実施したアンケートの記述を通して考察し、受験生としての学生に身につけさせるべき力について具体的に明らかにし、今後の学生指導へ活用していきたい。

### I 現状と課題

(地方)公務員採用試験では、自治体が全職種に課す一般教養試験(一次)の後に、保育職の適性能力を測定するための二次試験<sup>(3)</sup>が実施されている。音楽実技はほとんどの自治体で設定されているが、その内容の多くがバイエル<sup>(4)</sup>や幼児歌曲の弾き歌い<sup>(5)</sup>から提示され、具体的に楽曲を指定されたり、受験生が任意に選曲できたりするなどの差異はあるものの、主として音楽表現における「技能」を見る内容である。

しかしながら、近年では対象年齢や季節、また演奏前の導入などを課題曲(自由曲)に指定し、中には保育所等の現場を試験会場として、初対面の子どもたちを前にして実習形式で発表させる自治体も見られるようになった。したがって、受験生は従前に増して技能の修練にとどまらず、各々の保育者としての視点を盛り込み、準備に勤しむ必要性が高まっていると言える。

一般教養や専門、また論作文などについては、受験生がこれまで積み重ねてきた学習や特別講

座などによって一定程度その力量を獲得できることであり、音楽実技についても受験生の能力の差はあれども、教員の指導によって技能を向上させ、各々の課題に対応してきた。

その一方で、昨今の課題の変容から、自治体は受験生の保育への深い洞察力と、汎用性のあるアイデアを深く見極めることにより、保育者としての適性や専門性の能力の高い保育者を採用したいのではないかと筆者は考えるようになった。つまり、受験生は設定された課題から採用側の意図を読み取れるかが内定へのカギであると言える。一部ではあるが、筆記試験を全面的に廃止し、面接や実技等のみで採用試験を実施している自治体もあり、保育者不足の状況であるにも関わらず、より有能な人材を確保するために様々な方法を用い模索していることがわかる。

それでは、このように採用試験の課題が変容する状況において、音楽教員である筆者は今後どのような点に留意して指導し、受験する学生にも理解を深められるような示唆を与えれば良いのであろうか。そこで、次項では今年度A県B市を受験した4名の学生の協力を得て、受験前後のアンケートの記述から考察する。

## II A県B市の試験課題と受験生の取り組み、及び筆者の指導について

当該自治体では、5月と6月の2回に分けて採用試験を実施しているが、今回の4名は全員5月に受験している<sup>(6)</sup>。エントリー方法は氏名・住所・学歴等の他、志望動機及び自己PRを400字以内で記述し、持参・インターネット・郵送のいずれかの方法で出願する。一次では保育の専門性を問う「専門試験」、そして約1ヶ月後の二次では集団討論<sup>(7)</sup>と面接があり、これに加えて保育実技として音楽分野の試験が実施されている。下記の通り、一次通過者には自治体から課題について通知があった。

- ① 園児たちと体操をする。(ホール)
- ② 自由遊びをしている園児の中に入り、40分間遊ぶ。(年長組または年中組の保育室で)
- ③ 年長児を対象とし、園児がいると想定しデイリーの中の一場面を切り取り実践する(3分間) その中に、ピアノで1曲弾き歌いを取り入れる。※弾き歌いの曲目は自由とし、楽譜を見ながら弾いてもかまいません。会場に入ったら「受験番号・氏名・どの場面を想定しているか」を言うってから実技を始めてください。(ホール)

流れを見ると、初対面の年長児または年中児と関わり、その後再びホールへ移動して音楽実技を行う。実技の際には子どもは目前にいないが、3分間で発表する上で直前まで関わっていた子どものことを想起し、流れを組み立てられるようにするのであろうと考えられる。

さて、一次通過者のうち、今回筆者は4名から指導の要請を受け、学生が相互に参考として感想を述べ合えるよう、全員同席の上で計2回の面談指導を実施した。今回は学生AからDと称するが、彼女たちのパフォーマンスを見て共通する最大の問題は、導入として事前に話す内容を計画しているものの、3分という制限時間内に収まらないということであった。表現したいことがあまりにも多すぎて、意欲的ではあるもののまとまりに欠けるため、再度話の要点と流れを見直し、正確に時間を測定するよう指導した。

また、会場には試験官のみという静寂が予測される中で、あたかも子どもたちが目前に存在し

ているように目線の変化や話のスピードに留意し、間合いなどもよく考慮するよう伝えた。そして、指定されている「どの場面を想定しているか」という内容と、自ら構想した導入と選曲との関連性を十分に説明できるよう求めた。

その結果、2回目の指導ではいずれの学生も発表内容を再考したこともあり、制限時間を遵守することや子どもの目線に立ち、自然な間合いを持ってわかりやすく言葉を発し、スムーズに弾き歌いへ移行することができるようになった。

また、弾き歌い後に、次の活動へ移行するための説明も自発的に加わり、自治体が指示されたデイリーの一場面を切り取るという観点では、少なくとも筆者の目線からはどの学生も及第点に達していると評価できた。ただし、製作物については筆者の専門外であることから、造形担当教員の指導を受けるよう助言した。

最後に、筆者は学生自身が自らのパフォーマンスを振り返ることができるよう、スマートフォンの録画機能を活用することを推奨し、計2回の指導後に個別に筆者宛へ動画を送信するよう指示し、最終的に全学生のパフォーマンスを確認した。そして、現場で園長経験のある保育内容担当の専任教員にも、全体の流れについて指導を受けるように指示した。残るは本番を迎えるのみとなり、学生の健闘と幸運を祈りつつ指導を終了した。

その後、筆者はこれまで他の自治体も含めて課題内容を振り返り、一つの仮説を立てた。それは、学生の取り組みにも見られるように、音楽実技へ「言語」と「造形」の異なる分野を盛り込み、より保育者に必要な表現能力を測定したいのではないかということである。

A県B市の課題をあらためて見ると、日常の一部を保育者の視点でイメージする上で、子どもたちへの「言葉」がけと、子どもたちが視覚的に楽しめる「造形」は欠かせない要素であると考えられる。もちろん、二次試験の通知書類には「言語」と「造形」という文言がどこにも記載されていない。あくまでも、受験生の任意でいかようにも構想することはできよう。

そこで、筆者は学生が今回の試験をどのように受け止めて取り組み、受験時及び受験後に感じたことを振り返り、その内容を記述してもらうべく依頼することにした。そこで、次項では学生へのアンケート調査に基づいて考察する。

### Ⅲ 学生へのアンケート調査から

今回、本研究にあたり前述の通りA県B市の採用試験を受験した4名の学生を対象に、採用試験の課題へ向けてどのような準備を行い、どのような工夫を凝らして臨んだかについて協力を求めた。尚、依頼内容と質問項目は下記の通りである。（実際の回答記述については、原文に若干の修正を加えている）

- 1) 発表内容（受験生自身が発表に際して記したものの、写真可）の提出（コピー可）。
- 2) 3分間という制限時間の中で最初に考えたことや不安に思ったこと。
- 3) 1)に関して、なぜその内容に決定するに至ったか、アイディアの発想の元になった理由や工夫したこと。
- 4) 発表に向けて最も難しかったこととその理由について。

- 5) 私（筆者）の指導を受けて、改善した点について。
- 6) 試験会場で実際に発表した時の出来栄え、手ごたえや反省点について。
- 7) 内定を得て、今後保育者として向上させていきたい技術（今回の実技課題に関する保育内容における発想と、弾き歌い）について。

①最近、あつたね、夏にまねて  
 おんは夏に食べたの、甘い食べ物、いって何かな？  
 かき氷、いいねー！ 何味が好きかな？ おいしいよねー！ 他には？  
 アイス？ 先生アイス大好き！！ おんはもう好き？ そんなアイスがあるかな？  
 どうだね、ずい形とか、ぐるぐるの形とか、いっぱいあるよね！！  
 じゃあ、今日は、そんな夏に食べたの、甘い食べ物、  
 い、アイスクリームの歌を歌います！！  
 おんは聞いたことあるかな？ かいしどうはアイスクリームのことを思いなやう  
 一緒に歌ってねえ！！（ずい） おんは上手に歌えたねー！！  
 先生アイスクリーム食べたくなるときあったー  
 あれ？ 見て見てー！！ こんなところにアイスクリームがあったよ！！  
 先生食べたあー！ ベロベロ、あ、（あいた）茶、こし、死、に、でも、大丈夫（はず）  
 おんはよく見てね！！ いきよー！ ポン！！（ずい） おんはこれ、おんというの知ってる？  
 どうぞ！！ じんだ、ま！！！！ 今日は、このアイスクリームのけん玉を、おんはで  
 うけてみます！！

学生 A（選曲「アイスクリームのうた：  
 佐藤善美作詞、服部公一作曲）

- 1) 写真左の通り
- 2) 一日の中のどの保育の一部を切り取るのか、弾き歌い曲を何にするのかを考えました。最初は3分間の構成をどのようにすればいいのかわからず、不安でした。
- 3) 製作の前を想定すると、より自分のオリジナリティを出せると思ったので

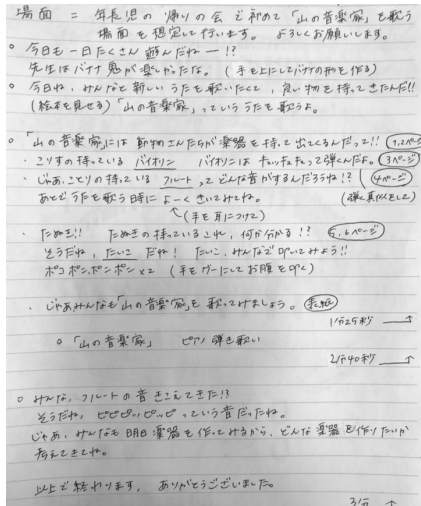
決めました。試験が6月だったので、今後使える7月や夏をイメージして、歌にも繋がるような製作物を探しました。5歳児が対象だったので、アイスクリームのけん玉で夏を感じながら、けん玉に触れ合うことができると思いました。製作物をアイスクリームにしたので、歌からスムーズに製作にいけるように、「アイスクリームのうた」にしました。

- 4) 大きな声で曲想をつけて歌うことが難しかったです。普段の授業でも弾き歌いはやっているけれど、ただ自分が歌うだけで子どもが目の前にいると想定して歌っていなかったのも、子どもに語りかけるように、みんなに聞こえるような大きな声を出さなければならなかったことに苦労しました。
- 5) 歌詞をより感じられるように、例えば「とろんとろん」だったらとろんとろんするように、「あーまいね」では、甘いように歌うなど、より曲に深みがでるように、聞いている人に伝わるように歌うことを心がけました。
- 6) 正直、緊張していてあっという間にすぎてあまり覚えていないのですが、覚えていないということは、特にミスをすることなく終えられたのかなと思います。試験官の方がメモのようなものを取りながら見ていたので、その都度顔を上げて見てくれている人を意識して演じるようにしていました。
- 7) 今回、夏の製作物や歌を調べただけでもたくさんあったので、年齢や季節により自分の持ちネタを学生のうちににつくっておきたいです。

#### 〈考察〉

3) の記述のように、学生 A は自らのオリジナリティをアピールするため、製作物を作成することを前提に選曲とストーリーを構想したことは良い取り組みであった。しかしながら、実際のパフォーマンスは一方的な言葉がけになり時間も超過していたため、先述の通り話すスピードや間合いをよく検討するよう指導した。その結果、2回目の指導では想定する場面と自身が発する

予定の言葉（セリフ）について端的によくまとめられていた。発表時の反省点と今後の展望についても、試験官に見られていることを意識しつつ、今後の保育者としての自身の課題についてもよく認識できたことがうかがい知れる。



学生B（選曲「山の音楽家：ドイツ民謡、水田詩仙訳詞」）

#### 1) 写真左の通り

2) 3分間で自分が何を子どもに伝えたいのかを決めることが難しく、時間内に収まるかが不安でした。しかし、自分は音楽が好きでピアノの実技試験は特にこだわりを持って全力でやりたいと思ったため、試験までの予定を手帳に細かく書いて計画を立てました。

3) 曲に関しては、私は楽器が好きなので、自分に合う曲だと思ったため山の音楽家を選びました。工夫した点は、子どもたちが様々な音や楽器に興味を示すことができるように音が鳴っている歌詞のところを目立たせて歌ったり、2番の歌詞だけオクターブ上げてフルートの音をクイズ式にしたりすることで曲をアレンジしました。

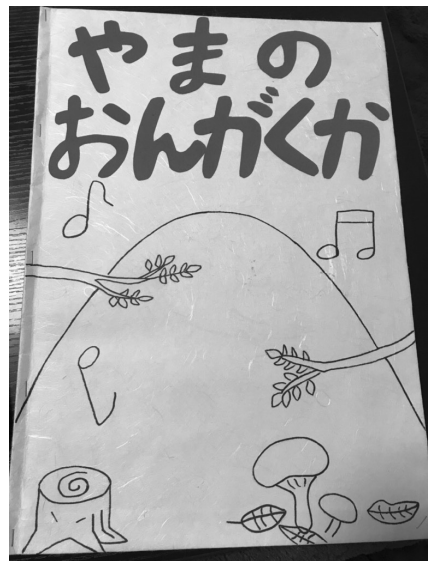
子どもと一緒に歌う時のことを想定して、とにかく楽しく大きな声で歌いました。導入に関しては、楽譜を持ち込むことができるということだったため、画用紙に楽譜を貼るだけではなく、絵も描くことによってイメージしやすいようにしたいと思い、手作り絵本を作りました。

4) 3分間に収めるのが難しく導入を何回も変更しました。

5) 歌詞の「おんがくか」の「ん」の発音をNからMに変えました。発表時間が長かったため、内容をまとめて時間を短くしました。

6) 実際に発表してみてもすごく楽しくてあっという間に終わりました。試験官は受け答えをしてくれませんが、本当の子どもだと思って試験官を見ながら歌いました。ホールが広いため、子どもの声に負けないように歌う気持ちで大きな声で歌ってきました。

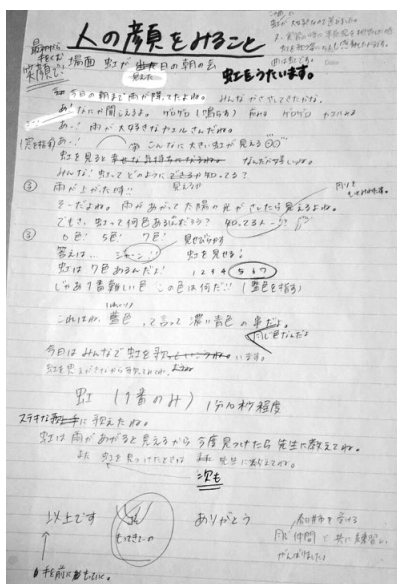
7) 保育者として、子どもと一緒に何かに楽しむことができるようにしたいため、例えばピアノの弾き歌いであれば子どもたちが自由に歌って表現できるようにしてあげたいです。そのためにも、自分がピアノを自信持って弾けるくらいまでの技術を高め、歌うことを子どもたちと一緒に楽しみたいです。





## 〈考察〉

当該学生は筆者のゼミ生であり、音楽が得意であることから、意欲的に準備を進めることができたことがわかる。写真にあるように、秒単位で言うべきセリフを確定させており、かなり精緻に計画を練っていることが見て取れる。実際に1回目の指導では表情豊かなセリフや視点、装飾した楽譜や実際の弾き歌いの演奏技術に至るまで、すでに本人なりのパフォーマンスが完成しており、大きく修正すべき点は見つからなかった。得意な音楽以外の要素も求められるとはいえ、どの観点においても高い仕上がりであった。



学生C（選曲「にじ：ドイツ民謡、水田詩仙訳詞」）

- 1) 写真左の通り
- 2) どんな曲を持ってくると自分をより表現できるか。去年の先輩はどのような感じで試験に臨んだのか。
- 3) 実習で「にじ」を歌う子どもの姿が印象的で思い出の曲だから。A市を受ける他の友達と見せ合って、良いところを自分の導入に生かした。
- 4) 表情を作ることと、目線が一番難しかった。自分では笑っていると思っていても、動画や自分の姿を鏡で見たときに、あれっ?となるが多かったため。また、緊張すると顔が強張るため。
- 5) 歌い方、ブレスの仕方に気をつけた。特に歌い方は聞いている人に歌詞がわかるようにはっきり歌うようにすると良いことを指導してもらった。
- 6) 私は試験会場でピアノを弾くときは全然緊張せず、いつも通りに発表することができた。笑顔で試験官を見て堂々と話すことができて良かったと思う。

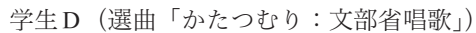
- 7) 弾き歌いの曲数を増やしていきたいと思う。後期では“さよなら僕たちの保育園”に挑戦したい。

## 〈考察〉

筆者の観点から、「にじ」を選曲する時点で音楽実技に多少なりとも自信を持っていると推察したが、この楽曲は歌唱の音域が1オクターブと比較的広いことと、一つのフレーズが長いために相応の息の量と幅広い表現力が必要である。1回目ではその点を指導し、歌詞の子音を明確に発音することを目標とさせた。

持ち前の明るい表情も自らを後押しして、2回目の指導では自己紹介から導入、そして歌唱に入る前の「さん、はい」の合図や視線を変えて行うことについても工夫がなされていた。筆者の





- 行き詰まる度に、同じくA市を受験するメンバーの子に見てもらって、意見を受けながら改善しました。後に、学科の先生に原稿を見てもらってアドバイスをもらって、6～7回くらい書き直しをして自分の納得のいく形までしっかり頑張りました。

- ように伝えるか、どうしても相手に届かということに力を入れました。そこで、行ったのは、自分の意見と合う先生や、いつも一緒にいる私をわかってくれている友達に時間の限り見てもらって、厳しくアドバイスをもらいました。友達には、審査員のように真顔で厳しく、審査してもらい、指摘された所は改善するよう心掛けました。自分の良さ、欠点、弱点を理解してくれている友達だから、意見を取り入れやすい部分があり個人的にとってもオススメです。
- 5) 初めて、弾き歌いを通して全体を見て頂いた先生だったので、指摘してもらった点が盲点だったことに気がつきました。また初めて、動画にして自分の姿を見たことにより、客観的に自分をみる事ができてよかったです。思っていたより、動きが小さかったり、笑顔が少ないこと、目線が定まっておらず、子どもの方を見ていないことが分かりました。褒めてもらえたところは、しっかり引き続き頑張ろうと思えることができました。

[illegible]

でき、指導後から気をつけるようにしました。そこから、全力で歌うことを心掛けました。

- 6) 会場では、実技の前に子どもと触れ合う時間があり、自然と笑顔になることが出来た為緊張感はあまりありませんでした。また、受験者の自分含め11人同士で話す時間を設けたことで、みんなで頑張ろうという一体感が生まれ、安心して落ち着くことができました。1人ずつ受験者が待機室から出て行く度に、待機室に残る受験者が、励ます姿が印象的でした。

そのため、私は全力で全てを楽しむことができました。本来の自分を出すことができるように努めました。また、たくさん悩みたくさん泣いた練習の日々を無駄にしたくないという、強い思いと、大好きな子どもたちと一緒に成長していくんだ、絶対に保育士になるんだ!! という自分の保育士への熱い思いが心の支えになりました。すると自然に、「実際に子どもたちとこんな風に朝の会がしたい!」と思うことができ、「自分は今、保育士なんだ!」という気持ちを持てることができ、楽しさしかありませんでした。

弾き歌いの最後、少し気が抜けてピアノの、〈レファ#レ〉(左手)が、ごちゃごちゃとしてしまったのですが、冷静さを保ち、笑顔でゆっくりとピアノから手を離し、何事もなかったかのように子どもたちに笑顔で声掛けをしました。そのため、私は悔いが一つありません!

- 7) 2年前期でやっと弾き歌いを20曲<sup>(8)</sup>達成することができました。前期は達成することが目標だった為、後期は子どもと楽しんで歌うことを意識して、こんな歌が歌いたいなとワクワクしながら選曲していきたいです。また、私は小学生の頃から歌にずっとコンプレックスを持っていて、歌のテストや、合唱コンクールが苦痛でしかありませんでした。友達とカラオケに行くことさえ、拒んできました。

しかし、そんな歌に苦手意識を持っている私でも、今回の採用試験の為に自分をさらけ出して、人からどう思われるか気にせず、一生懸命さが伝わるように毎日自分なりに少しでも上手くなるように頑張りました。さらに、私は5歳から8年間ピアノを習っていたのに、ピアノに自信がなくて、人前で弾く緊張感と、経験者なのに弾き歌いのレベルが低いことが辛かったです。メンバーと比べてしまって、みんなは年長児に合わせて高度な曲を選曲していた為、毎日練習する度に心配になり不安でした。しかし、この採用試験を通して、歌が下手とかピアノが得意じゃないなんて、自分の意識次第で試験とは無関係だということを証明できたと思います。どれだけ子どものことを考えて、一緒に楽しめるかが大事なのだということが学べたため、今後このコンプレックスを無くしていけるように、半年間頑張りたいです。

#### 〈考察〉

写真やアンケートを見ても、4名の中で最も当該学生の記述が多いが、それだけ多くの不安を抱えていたことと内定を得たことによる達成感が伝わってくる。本人の弁にもあるように、ピアノや歌唱に自信がないことは実際の演奏を聴いて筆者もすぐに察知できた。しかし、保育者になりたいという強い志と、同じ夢を持つ仲間にも励まされながら、この課題に対して最大限の努力を持って前向きに取り組んでいた。

筆者自身も最も指導に時間を要した学生であり、本人の記述からも筆者の指導をよく理解して修正を図っていたことがわかる。最後に送信された動画では、初回の指導時を大幅に超えて自信を持ってパフォーマンスする姿を見ることができた。



#### IV 学生指導とアンケート調査の結果を通して

このように、同じ課題に対して取り組んだ内容や姿勢については、正に四者四様であった。筆者は今回の指導とアンケート調査を通して、当該自治体は音楽実技の中に言語と造形という異なる2つの分野を織り交ぜ、保育者に必要な表現能力を測定し、受験生の適性をより深く読み取りたいという意図を強く受け取れた。

先述の通り、提示した当該自治体の課題には、言語や造形といった直接的な文言は見られない。しかし、年長児を目前にして無言で保育することはあり得ないし、造形物を通して視覚的な刺激を与えることで、幼児の興味や関心を引き出すことは保育者の重要な想像（創造）力であると言える。

冒頭で述べたように、これらを保育・教育的実践力として身につけ、より向上させることが採用試験を突破することのみならず、保育者として備えるべき適正であると言える。何より、今回指導した全員が無事内定を得られたのは、他の課題も含んでいたとはいえ、一定の水準に達していたと判断できる根拠と言える。

ちなみに、国家試験である保育士試験では、二次試験において「言語」「音楽」「造形」の各表現から任意の2つの分野を選択し受験することが義務付けられている<sup>(9)</sup>。ただし、今回取り上げたA県B市が保育士試験を意識しているかどうかは探りようがない。

もし穿った見方をするならば、実習のない国家試験による保育士資格取得者（取得見込みを含む）も受験することも含み、3分間の発表の直前まで、実際の子どもたちと触れ合う時間を確保してあったのも、子どもの姿をイメージするためのウォーミングアップであったのではないかと考える。中には全ての実技を子どもたちの前で行い、試験前に受験生が実習と同様に具体的な指導案を書類提出させる自治体もあるので、実習経験のない受験生にはハードルの高い課題であろう。

いずれにしても、従来の単なる技術的な課題では、適性をここまで測定することはできなかったであろうことには間違いがなく、現在は実技のみの試験を課している自治体も、今後ますます変容を遂げる可能性もあるため、各々の課題に対してさらなる分析を継続し、対策を強化する必要がある。

#### まとめと今後の課題について

今回の研究を通して、音楽実技といえども造形と言葉という異なる分野との融合を意識し、指導することの重要性が明らかになった。今回協力してくれた学生たちも、各々の準備を進めて行く上で様々な苦労と工夫を重ねることにより、単なる技術的な練習では不十分なことが理解でき、また受験後も保育者として求められる能力について改めて考える一つの機会となったに違いない。

また、採用試験のための指導に限らず、カリキュラムや教授内容の再考も必要であることを痛感した。保育現場ではピアノを用いた音楽活動は日常的に行われており、学生にとってピアノ実

技自体は必要不可欠なスキルの一つであることは不変である。

一方、今回取り上げたA県B市の実技試験に見られるような課題については、保育者を養成するカリキュラムの改正や、保育所保育指針及び幼稚園教育要領が改定されたことの影響も想定されるのではないかと考える。保育士養成課程では音楽は体育や図画工作などとともに“基礎技能”として位置付けられ、ソルフェージュや伴奏法などといった教科教育的な要素をもって実際のカリキュラムに組み込まれていた。

ところが、平成22年に改正された“保育表現技術”では、単なる技能の獲得ではなく、①子どもの発達と音楽表現に関する知識と技術②身近な自然やものの色や形、感触やイメージ等に親しむ経験と保育の環境③子どもの経験や様々な表現活動とを結びつける遊びの展開、というように大幅な変更がなされた。つまり、保育学生は保育内容における発達や遊びなどの特徴をよく理解し音楽活動を展開することが求められるようになり、自身の音楽技能を磨くことだけでは学びが不十分であることがわかる。

とはいえ、筆者はカリキュラム内容として、今後も実技を授業課題の中核から外すことは検討していない。採用試験対策に特化したカリキュラムや教授内容を検討することは困難であるが、保育所保育指針や幼稚園教育要領などと照らし合わせて、保育を学ぶ学生に適切な指導を行うための検討を今後も継続していきたい。

現場の園長からは「うちの園で働く人材にはピアノの高度なスキルを求める」と公言する声もたびたび聞かれる。筆者も実際に現場の保育者にピアノ指導をしたことがあるが、やはり一定の技術を獲得しておかなければならない。このジレンマをどのように解決し、適切な指導を遂行できるようにするかについても今後の課題と認識し、引き続き研究を進めていきたい。

## 謝辞

今回の執筆に際し、難関である公務員採用試験を突破した後とはいえ、日常的に多忙を極める中でアンケート調査の協力を快諾してくれた4名の学生に対し、心より感謝の意を表すところである。新年度より、子どもの最大の利益のために、4月から保育士として立派に活躍してくれることを切に願う。

## 注

- (1) 拙稿(2017)「公務員採用試験における音楽実技指導の一考察—多様化する課題へ向けて—」『名古屋短期大学研究紀要』第56号
- (2) 前年度に引き続き、2018年度も100名以上の公務員保育職の内定を得ている。
- (3) 自治体によっては三次試験まで設定されている場合もあるが、実技試験は概ね二次試験で実施されている。
- (4) バイエル(Ferfinand Bayer 1806-1863 ドイツ)は、ピアノの初心者用教則本として全106曲のピアノ練習曲を残しており、明治期に日本へ初めて西洋音楽が導入されて以来、今日に至るまで使用され続けている。日本のピアノ教育を受けた者の多くはこの教材で学んでいるため、保育職の試験でもバイエルが課題となる自治体や私立園も多い。
- (5) 弾き歌いとは、一人の学習者(保育者)が幼児歌曲を自らピアノを弾きながら歌唱することである。公務員保育職の他、私立園における採用試験の多くが実技課題としている。

- (6) 5月試験と6月試験の課題は異なり、前者では一般教養試験が設定されていない。また、6月試験の実技課題は任意の弾き歌い1曲のみである。
- (7) 8名程度の受験生が試験官から提示されたテーマをもとに、時間制限に相互で議論し一定の結論を出すという試験形式である。
- (8) 本務校では、音楽Ⅰ（1年次通年）及び音楽Ⅱ（2年前期）を通して、初心者は15曲、経験者20曲の弾き歌い曲数をクリアすることを課題としている。
- (9) 一般社団法人全国保育士養成協議会が国から委託を受け、年2回実施している国家試験である。主に保育士養成課程に在学していない者が受験し資格取得を目指す。一次は9科目の筆記試験があり、通過したものは二次試験へ進む。平成30年度の各分野の「表現に関する技術」試験課題は、次の通りである。（一部抜粋）

〈音楽表現〉 幼児に歌って聴かせることを想定して、課題曲の両方を弾き歌いする。

求められる力：保育士として必要な歌、伴奏の技術、リズムなど、総合的に豊かな表現ができること。

課題曲 1.『おかあさん』（作詞：田中 ナナ 作曲：中田 喜直）

2.『アイ アイ』（作詞：相田 裕美 作曲：宇野 誠一郎）

以上の2曲をピアノ・ギター・アコーディオンのいずれかで演奏すること（楽譜持ち込み可）

〈造形表現〉 保育の一場面を絵画で表現する。

求められる力：保育士として必要な造形表現（情景及び人物等を豊かにイメージした描写や色使いなど）ができること。

〈言語表現〉 3歳児クラスの子どもに「3分間のお話」をすることを想定し、下記の1～4のお話のうち一つを選択し、子どもが集中して聴けるようなお話を行う。

求められる力：保育士として必要な基本的な声の出し方、表現上の技術、幼児に対する話し方ができること。

課題 1.『おむすびころりん』（日本の昔話） 2.『3びきのこぶた』（イギリスの昔話）

3.『3びきやぎのがらがらどん』（ノルウェーの昔話） 4.『手袋』（ウクライナ民話）

## 参考文献

- 井中あけみ（2012）「保育表現技術としての「音楽表現」について—わらべうたによる合奏・合唱の実践を通して—」『豊橋創造大学短期大学部研究紀要』第29号
- 衣川久美子・山崎和子・由井敦子（2016）「幼稚園・保育所（園）・小学校の採用試験における音楽に関する出題傾向—総合子ども学科2011年～2014年の求人票の経年分析と就職状況—」『甲南女子大学研究紀要人間科学編』第52号
- 村上玲子・三島瑞穂（2017）「保育者養成校における教科目「保育表現技術」の捉え方と課題—音楽担当者の立場からの考察」『宇部フロンティア大学短期大学部人間生活科学研究』第53巻
- 辻浩美・田中麻衣・鹿戸一範（2018）「子どもの音楽的感性を高める指導を目指して—保育士・幼稚園教諭採用試験のピアノ実技を基に—」『小池学園研究紀要』第16号

（受理日 2019年1月9日）